

【市制100周年記念市民プロジェクト事業報告書】



令和3年12月28日

衣装展示会“香川高校デザイン科が織りなす「緑と花と彫刻のまち」の世界”

【趣旨】

“緑と花と彫刻のまち”宇部市は市全体が野外彫刻美術館となっている、特色のある地方都市です。市制施行100周年にあたる2021年、この世界に誇れる地域資源をファッションで表現することにしました。ファッションをとおして市民が一層宇部市を愛するよう、また貴重な地域資源を大切に育てていくことを願って企画しました。「緑と花と彫刻のまち」をテーマに、香川高校生活デザイン科の生徒がデザイン、縫製をした作品をフジグラン宇部で展示しました。



【衣装展示の概要】

◎展示衣装

テーマ:「彫刻」……7作品

テーマ:「緑」……4作品

テーマ:「花」……6作品

◎展示場所

フジグラン宇部1階ホール

◎展示期間

10月5日(火)～11日(月)

◎プロジェクトメンバー

香川高校生活デザイン科

NPO法人につぽんing協会

株式会社山陽ニット

◎デザイン優秀賞 審査

大田舞(宇部市出身、

フィンランド在住デザイナー)

【展示作品：テーマ“宇部市常盤湖”及び浴衣：テーマ“緑”と“彫刻”】



衣装展示コーナー
(令和3年10月5日撮影)



【作品：テーマ“宇部市常盤湖”】(左側作品)

☆第18回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会2018
第3位(銅賞)受賞作品(応募数 3,136作品)

☆作品名：「遡上」(常盤湖イメージ衣装)

☆制作者：藤井優美、松本真衣

【展示作品：テーマ“緑”】



おいでませ！宇部市へ

宇部市は自然とアートと産業のバランスのとれた、面白いところです。市内のいたるところに美しい自然とおおらかな人達に調和した野外彫刻がさりげなく置かれ、まち中アートミュージアムとなっています。特に東洋のレマン湖ともいわれている「常盤湖」が中心に位置する「ときわ公園」は、緑と花と彫刻がいっぱいの自然ミュージアムです。

宇部市は産業と共存しています。市内に空港があり、新幹線の駅から車で約40分とアクセスがよく、海と山に挟まれた災害の少ない、穏やかなところです。工場夜景や産業観光もあり、「住みたい田舎」ベストランキング(2020年版 宝島社[田舎暮らしの本])総合部門で1位となったさまざまな魅力があります。



観光によし、移住するによし、仕事するによし、そんな宇部市においでませ！

【展示作品：テーマ“花”】



【展示作品：テーマ“彫刻”】



【“デザイン優秀賞”受賞2作品(大田舞選出)】



テーマ 彫刻
盛田香音さん

彫刻の凜とした造形を上手く表現している作品です。白と黒のバランスや、アクセントの金色の生地の使用方がアートのでありながらファッションとして着用したいと思わせる実用的な点も素晴らしいと思います。同デザインの帽子まで制作されてコーディネートも考えているのも目を惹きました。盛田さんは縫製もお上手だと思います。これからも作品作りに励んでくださいね。

講評／大田舞

【“デザイン優秀賞”受賞2作品(大田舞選出)】



テーマ 彫刻
上間萌加さん

宇部市の街には様々な彫刻があり、綺麗な街並みに産業や自然が一緒になって存在している、というイメージをこの作品を見て感じました。作品を作られる中で無意識に日常の景色を汲み取っているのではないのでしょうか。

コートの金ボタンのアクセントも下のニットの素材感を引き立てています。コーディネートバランスが良く都会的で暖かい作品だと思います。

講評／大田舞

【デザイン優秀賞の表彰式及び大田舞氏を囲む会（特別講演）】

大田舞氏からデザイン優秀賞受賞者2名に表彰状と記念品の授与、及び生活デザイン科の1, 2, 3年生に特別講演が行われました。

- ◆ とき 令和3年12月16日 14:15～15:40
- ◆ ところ 宇部フロンティア大学附属香川高校3号館3階多目的ホール

表彰式・記念品の授与

デザイン優秀賞の受賞者、盛田香音さんと上間萌加さんに大田舞氏から表彰状及び記念品の贈呈が行われました。
記念品は大田舞氏自らが選んだマリメッコの商品など数点があったそうです。

表彰状授与風景



受賞者：盛田香音さん



受賞者：上間萌加さん

受賞者との記念写真



大田舞氏を囲む会(特別講演)

大田舞氏の講演は約1時間にわたり、現在に至るまでのご自身の生き方、フィンランドの魅力、そしてデザインへの取り組みなどが大田舞氏らしいやわらかな表現で語られました。講演のキーワードは、「人の縁、繋がり」と「フィンランド流の生き方」でした。デザインの技術論よりもデザインを目指す生き方が今の学生には大切なのだ、というメッセージが講演の間流れていたように思いました。最後に展示会で展示した5歳児用の女児服の贈呈(クリスマスプレゼンとして)を記念して大田舞氏と関係者一同で記念写真撮影をして閉会しました。

大田舞氏特別講演風景



参加者:生活デザイン科1, 2, 3年生

記念写真



【補足資料：野外彫刻について】

宇部市の「野外彫刻」について



1958年に宇部（現宇部新川）駅前に設置された「ゆあみする女」（複製）

はじまりは一体のレプリカから

宇部市は明治以降、石炭産業を中心にまちの基盤を築きました。戦後は工業都市として発展する一方、その代償として煤塵による大気汚染などの環境問題が深刻化します。そのなかで、生活空間を住みよいものへと変えていこうと、「緑化運動」や「花いっぱい運動」などの市民活動が始まりました。1958年、宇部市は花の種子を購入するために集められた基金の一部で一体の彫刻を購入しました。それを宇部駅（現在の宇部新川駅）前広場の噴水池に設置したところ、市民には大変好評でした。

その彫刻は、後の彫刻設置事業のきっかけとなった、ファルコネの「ゆあみする女」の複製品でした。やがて、手頃な作品を安易に設置するのではなく芸術性の高い彫刻を集め、青少年の教育や、若手芸術家の育成にも貢献しようという気運が高まりました。そしてついに、ときわ公園を舞台に、日本初の大規模な野外彫刻展「第1回宇部市野外彫刻展」（1961年）が開催されたのです。

現在、200点を超える彫刻が市内各所に設置されていて、宇部市そのものが野外彫刻美術館になっています。